

## 社会福祉法人絆の会 2024 年度事業計画について

2023 年度は、3 年目を迎えた「絆の会 5 か年中期事業計画」に沿って、事業形態も様々な変化があった。グループホームとしては、「リアン若里」が住居としての活用を終え松岡地区に「リアン松岡」として移転、病院からの地域移行 2 名が加わりスタートした。「クレール篠ノ井」は入居者の転居先が決まり 3 月には閉鎖し、今後は「びんず・あんだんて」の出張所としての活用を予定している。地域活動支援センター「皆神ハウス」は閉鎖した「リアン若里」の場所に「オレンジ若里」として移転し活動を行い、長野市北部障害者相談支援センターからの紹介が増えている。就労移行支援事業所「悠友ハウス就労支援センター」は利用者の減少が続き安定した運営を維持することが困難なことから 3 月で廃止することとした。大きなイベントとして、10 月 7 日に「絆の会法人化 20 周年記念事業」を開催した。きょうされん専務理事の藤井克徳氏をお招きし、4 本柱（当事者・家族・ボランティア・職員）で明るく希望の持てる未来を語り合い、学びあい、未来へ伝えていく時間を共有できた。人材育成としては、職層に応じた研修の開催や事業所ごとに行う職員の支援力向上のための短時間のミーティング（以下、支援ミーティングという）の充実をとおして、仕事の楽しさや働きがいを感じながら業務に取り組めるように努めた。一方で人材や運営状況の厳しさから事業の縮小を余儀なくされる現状もあり、課題が残った。

2024 年度は、就労移行支援事業所廃止後も利用者の就職希望へのニーズに対応できるように、会独自の就労支援チームを機能させる。「びんず・あんだんて」の出張所としての活用を予定している「旧クレール篠ノ井」については、今後のびんず・あんだんての事業展開も含めて有効的な活用ができるよう検討する。グループホームは、一人暮らし等を希望する利用者に対する支援に力を入れ、利用者の今後の生活を丁寧に支援するための職員体制（移行支援チームと日中支援チーム）を充実させる。作成した自然災害発生時における業務継続計画（BCP）が各事業所で効果的に活用できるようにさらに見直しと整備を続ける。

また、「絆の会キャリアパス（所長部門）」の作成を所長会で話し合いながら取り組み、主任会では昨年度作成したキャリアパスを用いて日々の取組を振り返りながら自身の成長につなげていく。研修では新任や中堅といった職層に応じた研修に加え、対象者の細分化を図ったり、研修内容に工夫を凝らして、学びの機会の充実を図る。各事業所で行う支援ミーティングは継続し、職員間のコミュニケーションや支援力の向上に努める。また、個々の職員へサポート体制として、新任職員を中心とした OJT の実施は対象者を広げて行う。

「絆の会法人化 20 周年記念事業」で掲げた「語り合い 学びあい 未来へ伝えよう」というテーマは、20 周年限りのものではなく私たちが継続して意識していくテーマでもあり、事業の一環として今年度は「絆の会記録誌」の作成に取り組む。

4 月からは職員の処遇改善を図り給与表の改定も行うが、物価の高騰や他業種との賃金格差は改善されておらず、障害福祉サービス等報酬改定が行われた今年度も法人運営の厳しい状況は続いている。障害福祉施策の充実に向けた運動も引き続き行いながら、安定した運営と質の高い支援が行えるよう、絆の会一丸となって進んでいく 1 年としたい。

# I 2024年度 法人本部事業計画

## 1 会議の開催等

### (1) 理事会の開催

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ① 2024年度第1回理事会 | 2024年6月6日(木)   |
| ② 2024年度第2回理事会 | 2024年11月14日(木) |
| ③ 2024年度第3回理事会 | 2025年3月21日(金)  |

適時理事会開催

### (2) 評議員会の開催

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 2024年度定時評議員会 | 2024年6月21日(金) |
|--------------|---------------|

### (3) 監事による内部監査

	2024年5月24日(金)
--	---------------

### (4) 評議員選任・解任委員会

### (5) 事業運営のための諸会議

- |                       |                |
|-----------------------|----------------|
| ① 運営会議                | 年3回            |
| ② 責任者会                | 適宜             |
| ③ 経営会議                | 年2回            |
| ④ 所長会                 | 年10回           |
| ⑤ 所長・主任会              | 年2回            |
| ⑥ 主任会                 | 年数回            |
| ⑦ 全体会                 | 年4回            |
| ⑧ 就労系会議               | 年12回           |
| ⑨ グループホーム会(世話人連絡会)    | 年12回           |
| ⑩ 地域活動支援センタースタッフ会     | 年12回           |
| ⑪ 相談室スタッフ会            | 年12回           |
| (6) 苦情解決担当者・第三者委員等会議  | 2024年7月12日(金)  |
| 苦情解決担当者・第三者委員事業所見学交流会 | 2024年11月15日(金) |
| (7) 虐待防止委員会           | 2024年7月12日(金)  |
| (8) サポーター・家族会合同事業所見学会 | 2024年10月22日(火) |

## 2 各種委員会・検討会等

- (1) 絆の会サポート委員会
- (2) 職員処遇改善検討会
- (3) ボランティア委員会
- (4) 災害・感染症等対策委員会
- (5) 絆の会ホームページ管理運営委員会
- (6) ハートレター絆編集委員会
- (7) 絆フェスタ実行委員会
- (8) 記録誌準備会

### 3 事業一覧

#### 社会福祉事業

##### (1) 一体型事業

就労継続支援B型事業 悠友ハウス 定員 25 名  
就労定着支援事業

##### (2) 就労継続支援B型事業

信州そば工房きずな 定員 20 名  
びーんず（従：あんだんて） 定員 20 名（主・従：10 名ずつ）

##### (3) 共同生活援助事業（グループホーム）

絆の会地域生活センター（3 か所） 定員 17 名

##### (4) 短期入所事業

みらいコーポ稲葉 1 床

##### (5) 地域活動支援センター

オレンジ若里（Ⅲ型Sタイプ） 定員 20 名

##### (6) 絆の会相談室

指定特定相談支援事業（計画相談支援）  
指定一般相談支援事業（地域相談支援）  
自立生活援助事業

### 4 職員体制

職員 53 名（正規（一般職員）19 名、嘱託等 34 名）

うち、統括施設長	1 名
統括管理者	3 名
所長・事務長	6 名
所長代理	1 名
主任	3 名
主任代理	2 名

### 5 職員研修計画

#### (1) 内部研修会

新任職員研修（3 年未満職員対象）	4 回
中堅職員研修	
職員スキルアップ研修	
パワーハラスメント、メンタルヘルス研修	1 回
各種研修報告	適宜

#### (2) 事例検討会

就労部門と地域・生活部門の 2 グループに分け各 4 回実施  
外部参加者：精神科医師、精神科ソーシャルワーカー、ケース関係者等

#### (3) 外部研修（県内外各種研修会）への参加

相談支援従事者研修、サービス管理責任者研修、ジョブコーチ研修、管理者研修  
OJT リーダー研修、中堅職員研修、新任職員研修、きょうされん関係研修  
障害者虐待防止研修、他

## 6 当事者・家族・ボランティア活動への支援

### (1) 当事者活動への支援

ひまわりの会への支援

絆の会各事業所のメンバー会及び自主活動（スポーツ・合唱等）

障害者スポーツ大会（地区予選）への参加及び練習（毎週水曜日）

第24回全国障害者スポーツ大会北信越・東海ブロック予選会バレーボール競技（精神障害者の部）

### (2) 家族会活動への支援

絆の会家族会総会・研修会・家族交流会の開催への支援

各事業所の家族会定例会の開催

### (3) ボランティア体制の充実と活性化への支援

絆の会ボランティア委員会による自主的活動（交流会・研修会）支援

精神保健福祉ボランティア養成講座の開催

「絆カフェ」支援

## 7 広報・普及活動等

絆フェスタ

2024年11月9日（土）

パンフレットの充実

ホームページによる発信

会報「ハートレター絆」の発行

年5回

## 8 障害者の地域生活向上に向けた取組

他団体や関係機関等との連携及び協同

長野市障害ふくしネット（長野市自立支援協議会）への参加

ポプラの会との協同

障害者福祉推進のための諸活動への参加

## II-1 2024 年度 一体型事業所（就労継続支援B型・就労定着支援）事業計画

1 悠友ハウス（就労継続支援B型） 定員 25 名  
 長野市若里三丁目 14 番 23 号 TEL：026-219-5131 FAX：026-219-4701

### (1) 2024 年度に向けて

2023 年度は、年度途中で職員の退職者がいた中、自分の担当以外の業務も担えるよう役割の変更や一部の事業では作業量を調整して対応した。利用者対応ではスタッフ会や支援ミーティング、その他その都度相談する時間を確保し、支援力の向上に努めた。

2024 年度は、就職希望者に対して当法人就労支援チームとも相談し、引き続き利用者の「働きたい」という希望に応えられるよう、作業内容を整理して支援する。各作業では作業量を増やし工賃向上を目指すとともに地域を対象に作業体験会の実施や送迎エリアの拡大をすることで新規利用者増を目指す。その他、利用者の主体的な活動を通して成功体験を積み重ね、自信が持てるよう取り組む。

### (2) 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就職希望者に対する支援の確立</li> <li>② 工賃向上と利用者増の取り組み</li> <li>③ 利用者の主体性を大切に活動</li> <li>④ 職員の質の向上</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 就職希望者には当法人就労支援チームと相談し、就職に向けた支援を続ける。課題の発見、対処法の習得、評価の場として施設外就労、印刷、ワゴンカフェ、ワークサンプルを実施する。また各作業工程をレベル分けし、就職までのステップを見える化することで利用者のモチベーションにつなげる。</li> <li>② アウトワーク作業は近隣地域への営業、販売はイベントへの積極的な参加や販路を拡大することで作業量を増やし、工賃向上を目指す。また、悠友ハウスの雰囲気を知り、作業するイメージを持つ場として地域を対象とした作業体験会の定期開催や、送迎エリアの拡大について当法人B型事業所と検討実施することで新規利用者増を目指す。</li> <li>③ メンバー会や行事では利用者が役割を持ち、考え、やり遂げるという成功体験を積み重ねる場面を積極的に用意することで自信につなげる。またボランティアとの活動について、利用者が交流できる場を増やす。</li> <li>④ 支援ミーティングを継続し、支援力の向上を図るとともに、「やってみたらできた」という成功体験を積み重ね、職員のやりがいにつなげていく。またその都度、利用者対応について相談できる時間を確保していく。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業：軽作業（箱折り・発送・ゼリー詰め）、清掃、印刷、販売（出張販売・Kizuna Shop）、ワゴンカフェ、アウトワーク（草取り、公園の手入れ）、カーナビ封緘</li> <li>■ 行事：お花見、暑気払い、新年会</li> <li>■ その他：メンバー会（月1回）、合唱（月2回）、スポーツ（ソフトバレー）、避難・防災訓練（年2回）、研修会等参加（随時）</li> </ul>
作業種別 目標工賃	<p>時給：軽作業 110 円、ワゴンカフェ 550 円、アウトワーク 550 円          大日本法令印刷 250 円、清掃 650 円、販売 200 円、印刷 150 円</p> <p>平均月額：11,000 円          最高月額：35,000 円</p>

## 2 悠友ハウス（就労定着支援）

長野市若里三丁目 14 番 23 号 TEL : 026-219-5131 FAX : 026-219-4701

### (1) 2024 年度に向けて

2023 年度は、欠勤が多い利用者にはその都度話を聴き、どうしたら出勤できそうかを一緒に考えた。雇用主とも対応方法について話し合う場を設けたことで出勤につながった。

2024 年度は、雇用主が主体的に利用者に関われるよう対応方法や障害理解など必要な支援を行い、関係機関とはサービス終了を見据えて情報共有していく。また B 型事業所からの就職者について当法人就労支援チームと情報共有し、スムーズに就労定着支援に移行できるよう準備していく。

### (2) 事業計画

重点目標	① 雇用主による主体的なかかわりのサポート ② 関係機関との情報共有 ③ 就労支援チームとの連携
目標に向けた取り組み	① 雇用主からの相談には迅速に対応し、利用者と良好な関係を維持できるよう取り組む。また主体的に利用者に関われるよう対応方法や障害理解など必要な支援を行う。 ② サービス開始時から、サービス終了を見据えて関係機関へ支援の引継ぎをスムーズに行えるよう、利用者と顔を合わせる場面を計画的に作る他、情報共有していく。 ③ B 型事業所の就職者について就労定着支援へ移行できるよう当法人就労支援チームと情報共有し、サービス開始に向けて準備していく。

## II-2 2024年度 就労継続支援B型事業計画

1 信州そば工房きずな 定員20名

長野市柳原 659-1 TEL：026-263-9788 FAX：026-217-5220

### (1) 2024年度に向けて

2023年度は、コロナ禍が明け販売や行事など以前の日常活動が戻ってきた。製造では助成金を活用し自動麺切カッターを導入した。援農では、負担の多い施設外作業から屋内の作業に切り替え定着した。毎日送迎を行うことで利用の定着を図れた一方で、見学や新規利用者は少なかった。

2024年度は、麺製造では自動麺切カッターの活用を進め、製造量と作業時間を増やし、工賃アップを目指す。他の生産活動（販売、援農、出荷準備、軽作業）も同様に作業量と時間を増やしていく。これら生産活動の充実と併せて送迎サービスの拡大を図り、利用者増を目指していく。一方で、老朽化の進んだ建物や設備の補修を行い、安心して作業できる環境を確保する。また、支援ミーティングでの意見交換と学び合いを継続し、個々の利用者丁寧に支援を実践していく。

### (2) 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 作業量増と工賃向上</li> <li>② 利用者数の増加</li> <li>③ 環境の整備</li> <li>④ 職員の資質向上</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 麺製造では、作業量を増やすために、生製品は販売促進部と連携して地域中心に予約販売を進め、半生製品は手土産や謝礼品として、自主ギフトとして販路を拡大する。新規では、ふるさと納税返礼品のネット販売を開始し、新たな顧客の獲得を目指す。また作業量の増加に対応するために、自動麺切カッターを効率的に活用していく。その他、収益性を高めるために、商品のパッケージデザインの改良と価格改定を進める。麺製造の作業量を増やす取り組みにより、付随する軽作業や出荷準備の作業量を、併せて増やしていく。援農作業では、計量と袋詰めをする野菜の種類を増やすことに加えて、発送作業を新たに行い、工賃向上を目指す。</li> <li>② 送迎サービスでは、対象地域を拡大して通所しやすい環境を整備し、通所手段の選択肢を広げて、現利用者の利用日数の増加を図っていく。また関係機関へ活動の周知を徹底して、新規利用者増を目指す。</li> <li>③ 経年劣化による建物や各設備の修繕を行う。また、製造機械のメンテナンスやマニュアルの整備を行い、利用者が作業しやすい環境作りを進めていく。</li> <li>④ 職員の資質向上のため、関連する研修への参加と学びを促す。支援ミーティングを継続して、日々の支援の振り返りと利用者の情報共有を密に図っていく。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業：麺類の製造、商品の出荷準備、販売、援農（野菜の計量と袋詰め）、軽作業（納品、自主製品のシール貼りや箱折り）、その他（そば茶の計量と袋詰め、など）</li> <li>■ 行事：お花見、暑気払い、新年会</li> <li>■ その他：メンバー会（月1回）、スポーツ（ソフトバレー）、避難・防災訓練（年2回）、研修会参加（随時）</li> </ul>

作業種別 目標工賃	時給：製造 600 円、販売と出荷準備 500 円、援農 400 円 軽作業その他 200～400 円 平均月額：35,000 円 最高月額：75,000 円
--------------	--

2 びーんず（主：びーんず） 定員 10 名

長野市篠ノ井御幣川 1233-1 TEL：026-214-5446 FAX：026-214-5449

(1) 2024 年度に向けて

2023 年度は、イベントの再開や観光需要の高まりにより、菓子も軽作業も作業量が増え、活気がある 1 年であった。また、全職員が利用者と面談する機会を設けたことで利用者の新たな一面を知ることができ、また、信頼関係の構築につながった。

2024 年度も引き続き、魅力ある事業所づくりに取り組む。利用者個々のニーズの把握とそれに応じた作業の確保、支援の充実に努め、利用者の力を引き出すことができる事業所を目指したい。また、職員の資質向上や更なる連携強化に取り組み、職員にとっても働きがいを感じられる事業所を目指したい。

(2) 事業計画

重点目標	① 利用者の活躍の場づくり ② 工賃アップに向けた取り組み ③ 一般就労を希望する利用者への支援体制の強化 ④ 職員の資質向上、連携強化
目標に向けた取り組み	① スキルアップを目指す際にポイントとなる点や基準をわかりやすく示し、達成感やスキルアップの実感が得られやすいよう工夫する。引き続き、マニュアルの改良・作成、映像資料の活用に取り組み、利用者の主体性を高める。また、作業場面以外でも活躍の場を創出するため、メンバー会や行事の開催、体験発表の場の設定に取り組む。 ② 菓子作業では引き続き、ギフト商品の開発や週末の販路開拓、季節商品の PR などに力を入れ、作業量を確保する。2つの作業室を活用し、2班制の作業体制づくりを進める。軽作業は、現在の取引先企業と丁寧な連絡を続け、一年を通して安定した作業量を確保できるよう努める。 ③ 一人一人の希望、段階に応じて支援を検討する。びーんずで提供できる就労支援が何か整理し、わかりやすく示していく。就労支援チームと連携しながら、企業見学や就労した卒業生の体験発表など一般就労への意欲が沸くような機会の設定に取り組む。 ④ 支援ミーティングを継続して行い、利用者の基本情報の共有や日々の支援の振り返り、フォローアップの機会を確保する。支援会議やモニタリング会議での経過を共有するなど、あんだんでも含め職員間の連携を強化する。各種研修へ積極的に参加する。
活動内容	■ 作業：菓子の製造、販売（定期販売やイベント販売への参加）、軽作業（ゼリーの筒詰め、箱折り、果実のネット折り作業等）、自主製品作り（紙袋作り等） ■ その他：メンバー会（月 1 回）、合唱（月 2 回）、スポーツ（ソフトバレー）、避難・防災訓練（年 2 回）、研修会等参加（随時）
作業種別 目標工賃	時給：菓子 570 円、軽作業 150 円、販売 300 円 平均月額：35,000 円 最高月額：55,000 円



3 びーんず (従: あんだんて) 定員 10 名  
 長野市篠ノ井布施高田 832 TEL・FAX: 026-213-6122

(1) 2024 年度に向けて

2023 年度は、物価高に対応するため、原材料の見直しや価格改定を行ったことで、収入を維持することができた。しかし、新規の利用がない状況が続いており、現利用者の高齢化等に伴う欠席も増えてきているため、利用者増が依然として課題である。

2024 年度は、利用者が過ごしやすく、力が十分に発揮できる事業所づくりを進めたい。これまで取り組んできた作業を活かしながら、利用者に関わる工程を増やし、より活躍できる事業内容を構築していく。職員については、支援ミーティングを継続し、意見交換や学習を行うことで資質の向上を目指す。びーんずも含め職員間の連携を強化し、一丸となって事業所を盛り上げていく。

(2) 事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者増</li> <li>② 利用者の力が発揮される環境づくり</li> <li>③ 利用者が過ごしやすい環境の整備</li> <li>④ 職員の資質の向上、連携強化</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 見学・体験者を積極的に受け入れる。作業の切り出しを行い、初めてでも取り組みやすい作業内容を充実させる。調理や接客の楽しさなどの魅力が伝わるよう、配布資料の内容を工夫する。</li> <li>② 調理実習や接客練習など、実践を交えながら楽しくスキルアップできるよう工夫する。マニュアルの作成・改良を進め、作業しやすい環境づくりを進める。施設外作業やワゴンカフェ販売は、事業所でも練習を行い、自信をもって企業や県庁での作業に臨めるようにする。また、メンバー会の定期的な開催や体験発表の場の設定などを通して、作業場面以外でも利用者の力が発揮されるよう努める。</li> <li>③ 男女別の更衣室やロッカーの整備、駐輪場の設置など利用者にとって利用しやすい環境を整備できるよう、検討していく。</li> <li>④ 支援ミーティングを継続して行い、日々の支援の振り返りの機会を確保する。びーんず・あんだんて間でスタッフの行き来を定期的に持つなど、月例のスタッフ会以外にも情報交換の機会を持つ。</li> </ul>
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 作業：軽食事業及び弁当惣菜製造、販売（定期販売やイベント販売への参加）、施設外就労（大日本法令印刷での封緘・検品作業）、県庁ワゴンカフェ販売</li> <li>■ その他：メンバー会（月 1 回）、合唱（月 2 回）、スポーツ（ソフトバレー）、避難・防災訓練（年 2 回）、研修会等参加（随時）</li> </ul>
作業種別 目標工賃	<p>時給：キッチン（調理）450 円、フロア（接客）420 円、施設外就労 400 円          販売 300 円、ワゴンカフェ 500～700 円</p> <p>平均月額：35,000 円          最高月額：55,000 円</p>

### Ⅲ 2024年度 共同生活援助事業計画

絆の会地域生活センター 定員 17名 長野市稲葉

#### 1 2024年度に向けて

2023年度は、「リアン若里」は松岡地区に移転し「リアン松岡」に名称を変更した。地域に定着できるよう、地域行事などへも積極的に参加してきた。職員のスキルアップのための勉強会は継続し資質向上に努めた。複数でかかわるよう職員体制について検討を重ね、利用者支援の向上を図ってきたが、職員間のコミュニケーション不足等課題が残った。

2024年度は、グループホームから一人暮らし等を希望する利用者に対する支援に力を入れるため、職員体制を整備する。また、昨年から取り組んでいる職員の支援向上を図る支援ミーティングは継続して行う。生活の場であるグループホームがより地域に根差した場となるよう、移転した「リアン松岡」を始めグループホーム全体が、地域住民との関係を深め地域行事へも積極的に参加する。

グループホーム全体の交流の場が欲しいという利用者からの声を受けて、利用者主体で企画、実行できるように支援を行い、社会参加、社会体験できる機会をつくる。

#### 2 事業計画

重点目標	① 一人ひとりのニーズ、希望に沿った個別支援の継続 ② チーム支援の強化・支援力アップ ③ グループホームから新たに一人暮らしを希望する利用者への移行支援 ④ 地域との関係強化を図り地域に根差した活動 ⑤ グループホーム相互の交流を図り、社会参加、社会体験の場をつくる
目標に向けた取り組み	① 利用者本人の夢、希望に沿った支援を行うため、定期的に支援内容の確認を行い、利用者のニーズに沿った支援を行う。事業所での定期面談の実施。 ② 職員間が話しやすい、相談しやすい職場環境を意識する。情報共有の徹底、進捗状況の確認。支援ミーティング、職員勉強会の継続、研修参加後の事業所内での研修報告の実施。 ③ 地域生活への移行支援及び新たな暮らしに馴染むための訪問支援等を行う移行チームと、グループホームの日常生活支援を行う日中支援チームを配置し、役割を明確にする。 ④ 運動会、清掃活動、文化芸能活動等の地域行事へ積極的に参加する。 ⑤ グループホーム全体の行事を利用者主体で企画、実施できるように支援する。
活動内容	■ メンバー会（月1回）、地域行事への参加、地域住民に向けて見学会の実施 ■ 行事：グループホーム毎（誕生日会・季節の行事）、ひまわりの会（当事者会）、ボランティア受け入れ、避難・防災訓練（年2回）、レクリエーション（忘新年会・暑気払い等）
基本情報	絆の会地域生活センター（3か所） セルフイー平林（定員5名） 長野市平林1丁目 リアン松岡（定員5名） 長野市松岡1丁目 みらいコーポ稲葉（定員7名） 長野市稲葉

## IV 2024年度 短期入所事業計画

みらいコーポ稲葉 定員1名 長野市稲葉

### 1 2024年度に向けて

2023年度は、見学から新規利用につながるケースが多く、新規利用者も含め、大勢の利用があった。利用時には個別に支援内容を確認し、安心して利用していただけるよう職員間でも情報共有をしっかりと行った。

2024年度は、引き続き職員間で情報を共有し、一人ひとりのニーズに沿った支援のため、個別面談や家族との調整を行っていく。利用促進のため積極的な情報発信を継続して行い、相談支援専門員との連携につとめる。ホームページでの空き室確認状況は、予定が組みやすいと利用者や家族から好評のため、さらに周知し、活用を促す。

### 2 事業計画

重点目標	① 利用者の利用目的・目標を共有し、一人ひとりのニーズに沿った支援を心がける ② 広報活動、PR活動の継続
目標に向けた取り組み	① 利用開始時に目標・計画の確認、利用後には振り返りを行う 環境整備を行い、安心して過ごせるよう配慮する 職員間の申し送り事項の徹底 家族との連絡調整、相談支援専門員との情報共有 ② 法人内外に積極的な情報発信 相談支援専門員との連携、ホームページなどを活用し情報発信を積極的に行う
活動内容	みらいコーポ稲葉の行事等に参加

## V 2024年度 地域活動支援センター事業計画

地域活動支援センターⅢ型S オレンジ若里 定員 20名

長野市若里四丁目5-28 TEL：026-278-7466 FAX：026-285-0579

### 1 2024年度に向けて

2023年度は登録者131名（2022年度124名） 新規登録者30名（2022年度20名）

2023年度、開設20年を迎えた5月に松代町からグループホーム「リアン若里」の後利用として移転を行い、名称を「皆神ハウス」から「オレンジ若里」に変更した。活動は、利用者主体の活動に力を入れ、特にメンバー会ではオレンジ若里の利用に関する意見や行事の企画を提案するなど積極的に活動ができてきた。地域交流では若里地域の方の作品展示を行い、オレンジ若里の周知を図ったが十分ではなかった。

2024年度は、新規の利用登録が増えているので、個々の利用者のニーズにあった支援を行う。また、利用者の主体的な活動を支援する。利用者の社会参加・社会貢献のできる場として、ボランティア活動の機会をつくる。利用者支援の向上のために、スタッフ会の他に職員研修のための支援ミーティングの機会をつくる。地域交流については、芹田地区の地域との交流ができるよう地域福祉関係者との関わりを作る。また、信州大学の学生との交流の場をもてる機会をつくる。

### 2 各施設事業計画

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 利用者一人ひとりの利用目的に沿った支援を行う</li> <li>② メンバー会が主体的に活動できるように支援する</li> <li>③ プログラムの充実日中活動・野外活動により社会体験の場を増やす</li> <li>④ 社会参加・社会貢献のできる機会をつくる</li> <li>⑤ 地域との関係づくり</li> </ul>
目標に向けた取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 相談支援を中心に、利用者の日中活動の目的を職員間で共有し適切な支援を行う。</li> <li>② 日常の出来事や課題・意見など、利用者が言いやすい雰囲気と解決に向けて話し合いのできるメンバー会にする。</li> <li>③ プログラムは親しみやすく参加しやすい内容にする。</li> <li>④ 社会参加を目的とする行事は、利用者主体で計画し実行するプロセスを支援し、振り返りを行い利用者の体験を増やしていく。利用者のボランティア活動の場をつくる。</li> <li>⑤ 若里地域との関わりのもてるプログラムの実行。</li> </ul>
会議等	長野市障害ふくしネット(かつどう部会)への参加
活動内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 創作的活動（手しごとカフェ、コラージュ、昼食作り、手芸、女子会等）</li> <li>■ 生産活動（喫茶オレンジを活用して就労準備支援を行う）</li> <li>■ 当事者育成（ピアカウンセリンク、メンバー会支援、体験発表等）</li> <li>■ 地域交流行事（ミニコンサート、作品展示、ギャラリートーク）</li> <li>■ 生活支援講座（市等の出前講座等を活用する） ■ 広報活動（リーフ通信等）</li> <li>■ 避難・防災訓練（年2回） ■ 行事（お花見、デイキャンプ、ハイキング）</li> <li>■ その他：当事者会（ひまわりの会）参加、合唱参加（月2回）、スポーツ参加（ソフトバレー）、利用者参加のボランティア活動、家族定例会（年1回）、家族茶話会（月1回）、家族向け学習会（年1回）、研修会等参加（随時）、実習生の受け入れ、関係機関との連携</li> <li>■ メンバー会主催：メンバー会（月1回）、暑気払い・忘新年会、カラオケ</li> </ul>

## VI 2024年度 相談支援事業計画

絆の会相談室

長野市稲葉15-7 TEL : 026-217-6637 FAX : 026-213-6444

### 1 2024年度に向けて

2023年度は、相談室の体制が大きく変わったため、担当ケースを見直した。相談支援の質の向上を図るため、相談室のスタッフ会での検討の他、主任相談支援専門員が訪問、会議等に同行し必要な支援を行った。地域移行支援は相談支援専門員と連携し複数の視点で関わった。地域定着支援、自立生活援助は事業内容について十分な周知ができなかった。

2024年度は、長野市南部相談支援センター及び地域移行コーディネートセンターの委託事業を受託しないため、長野市障害ふくしネットに積極的に関わり、新しい情報を意識しながら事業を行う。計画相談の質の向上を図るため、関係機関が作成する個別支援計画との連携を意識して事業所に働きかけていく。地域移行支援、地域定着支援、自立生活援助事業が必要な利用者に届くよう関係機関に働きかけていく。

### 2 計画相談支援・地域相談支援事業

2023年度は、利用者の希望に沿った支援を行うため、適宜モニタリング頻度を上げてきた。しかし計画相談を意識した個別支援計画の目標の確認までは十分できなかった。

2024年度は、利用者の希望に沿った支援を行うため、計画相談と個別支援計画を連動させ、必要に応じてモニタリングの頻度を上げるとともに、各事業所とより連携を密にしていく。

地域定着支援は、退院した方や一人暮らしの人が安定した地域生活を継続していくことができるよう支援していく。

- ① 障害当事者及び家族、関係者等からの相談（電話・来所）・訪問・同行等の支援及び情報提供
- ② 計画相談支援、地域移行支援、地域定着支援台帳の作成
- ③ 長野市障害ふくしネット、指定相談支援事業所連絡会、各種研修に参加する

### 3 自立生活援助事業

2023年度は、利用者のニーズに沿って福祉サービス以外の社会資源を活用していくことができた。

2024年度は、事業の関係機関への周知を図り、自立生活援助のサービスを必要としている方に届ける。また、利用者が事業終了後も本人の希望に沿った生活を継続できるよう支援する。

- ① 利用者への定期訪問により、安定した地域生活を送れるよう支援していく
- ② 相談支援専門員との連携を密にし、支援の方向性を共有し自立生活支援計画を作成する
- ③ ケア会議への出席等